

問題【国語】

次の言葉の意味を説明してみましょう。

- (1) 半ドン
- (2) 焼き増し

豆知識 雑学コラム

言葉の違い 調べよう

今年も残すところ、あと1カ月余りとなりました。今年には「三密」や「ソーシャルディスタンス」などコロナ関連を中心に新語、流行語が生まれました。こうやって新しい言葉が生まれ普及していく半面、使われなくなっていく言葉、死語があるのも事実です。今回は、使われなくなってきている言葉をみていきましょう。

まずは、土曜日に半日出勤して午後から半日休みを表す「半ドン」です。「半」は「半日」の略で、ドンは「博多どんたく」でも使われている「ドンタク」の略で、オランダ語の「zondag（ゾントーク）」が訛ってできた言葉で日曜日、休日を表しています。会社での土曜休みが普及し、特に、2002年に公立学校が学校週5日制になって以降、使われる機会が少なくなったため、20代より下の世代には馴染みのない言葉です。このように言葉が使われなくなる要因として、社会の変化や技術革新があげられます。

「焼き増し」も使われなくなってきた言葉の一つです。スマートフォンやデジタルカメラができる前、写真はフィルムで撮影、保存していました。フィルムに強い光を当てて、写真をプリントすることを「写真を焼く」と言い、すでにプリントした写真を追加でプリントすることを「焼き増しする」と言いました。フィルムのカメラが珍しくなってきたため、「焼き増し」という言葉を使う機会は減ってきました。一方で、DVDにデータを書き込むことを「DVDに焼く」というように、写真を現像することから転じて、データを何かに記録することを「焼く」と呼ぶこともあります。他にも現在、保存された動画映像全般を指して使われるVTRなども意味が変化していった言葉です。

このように、言葉は消えるだけでなく変化して残っていくこともあります。さて、携帯電話のメールで写真を送ること、転じて携帯電話で写真を撮ることを「写メ」と呼ぶことがあります。しかし、LINEやTwitterなどのSNSの発達で、写真をメールで送ることがなくなり、中高生の間では少しずつ使われなくなってきている言葉になっています。このように言葉が使われるかどうかは世代間でも差があるようです。親世代、子世代、孫世代でどんな言葉の違いがあるか、調べてみてはどうでしょうか。

【解答】

- (1) 半日働いて午後から半日休むこと
- (2) 写真のフィルムをもう一度現像すること